

大学体育における創作ダンス授業の試み ラバン/パーテニエフ・ムーヴメント・スタディーズ/システムを用いて

橋本有子（お茶の水女子大学）

1. はじめに

これまで、表現運動・ダンス領域の授業実践において、動き（ムーヴメント）の学習の重要性が指摘されてきた^{2), 5), 6)}。筆者は、ムーヴメントをてがかりに、その面白さを抽象的に探求しながら創作活動に繋げる「ムーヴメント始まりの創作ダンス」授業を行っている⁷⁾。授業者の視点では、学習者らのダンス経験を含む「表現履歴」³⁾の違いが、同じ課題に取り組み表現するという側面には差を生まないものの、知識や理解、技能の獲得の側面には差を生んでいる。ダンス経験が有る学習者（経験者）らはムーヴメントや創作の複雑性や発展性を好む傾向があり、経験が無い学習者（未経験者）らは初めて出会う表現や創作の世界、そして経験者との表現履歴の差に戸惑う様子がみられる。

しかしながらこれまで、ダンス経験の有無による授業への取り組み、学習内容の好み、また学習継続意欲などについての違いがあるのか、明らかにされてこなかった。そこで本研究は、「ムーヴメント始まりの創作ダンス」授業の学習者らの主観的な評価を、質問紙を用いて調査し、ダンス経験者と未経験者がもつ学習への印象の違いを検討する。

2. 方法

「ムーヴメント始まりの創作ダンス」授業実践は、必修の大学体育授業の選択「ダンス」の全15回のうち、4時限から8時限の計5時間行った。内容は、ソマティック・ムーヴメント・エデュケーションの性質をもつラバン/パーテニエフ・ムーヴメント・スタディーズ/システム (LBMS) のムーヴメント概念の学びを経て、それらをてがかりにして創作活動を行うものであった。図1は、授業で用いた7つのムーヴメント・コンセプト（概念）が、LBMSの代表的な四つの視点であるBody、Effort/Dynamics、Shape、Spaceのどこに分類されるかを示したものである。

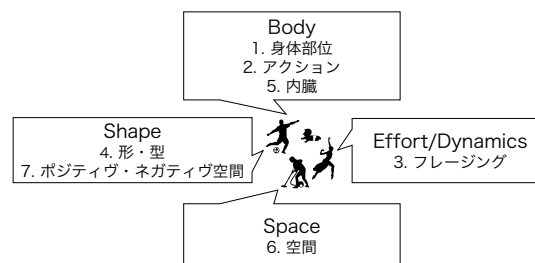


図1 使用した7つのムーヴメント概念

対象者 2019年10月から2020年1月に行われた大学体育授業2クラスで、ダンスを選択した大学1年生女子53名を対象とした。このうち研究参加の同意が得られた計43名、経験者（習い事や部活動など授業外でのダンス経験がある者）22名、未経験者21名の回答が分析の対象となった。

手続き 学習者らに研究についての説明を行い、研究参加に同意する場合、同意書への署名および質問紙の回答を求めた。学習者らは各々の携帯電話を用いてQRコードを読み込み、Google Form経由で回答した。本研究はお茶の水女子大学倫理委員会の承認を得て実施した。

質問紙調査 質問内容（表1）は酒向⁴⁾を参考に作成し、調査は10時限後に行った。回答形式は2件法、5件法、または自由記述であった。

表1 質問紙調査の内容

番号	質問内容	回答形式
1	授業外のダンス経験、種類、頻度、期間	記述式
2	創作ダンスの授業を受けたことがありますか	はい/いいえ
3	時期、内容、そのときの経験について	記述式
4	経験の有無に関わらず、今回の授業を受ける前までの創作ダンスの印象を教えてください	5件法
5	その理由について教えてください	記述式
6	ムーヴメント始まりの創作ダンスは楽しかったですか	5件法
7	ムーヴメントを出発点にしたことによりダンス作品は創り易かったですか	5件法
8	ムーヴメント始まりの創作ダンスの良かった点は何ですか	記述式
9	ムーヴメント始まりの創作ダンスの難しかった点は何ですか	記述式
10	授業で取り上げたムーヴメント概念で最も好きだったものについて、その理由と共に記述してください	記述式
11	逆に最も難しかったものについて、その理由とともに記述してください	記述式
12	ムーヴメント概念をもっと学びたいですか	5件法
13	最後に、これまでの授業を振り返って考えたことを自由に書いてください	記述式

以下、質問 6 から 13 の結果を示す。

質問 6、7「楽しさ」「創り易さ」

「楽しさ」に関して経験者は 91%、未経験者は 81%が肯定的な評価をした。また「創り易さ」に関し、経験者は 82%、未経験者は 86%が肯定的な評価をした。したがって、80%以上の学習者らが、ダンス経験の有無にかかわらず、創作活動に楽しく取り組めたことがわかった。

質問 8、9「良かった点」「難しかった点」

以下、表 2 に「良かった点」と「難しかった点」の、経験者と未経験者の回答結果を示す。

表 2「良かった点／難しかった点」の回答結果

<経験者>	
良かった点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 枠組み、始点、土台、材料、手札があり創り易かったこと ・ 「ムーヴメントの理論や知識を得られ、知的満足感があったこと
難しかった点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「上手く発展させられなかったこと ・ 「ムーヴメント同士を繋ぐこと」「他者のムーヴメントと繋ぐこと ・ 「特になし」
<未経験者>	
良かった点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 枠組み、始点、土台、材料、手札があり創り易かったこと ・ 「特になし」 ・ 「創作に新規性・独自性が出たこと
難しかった点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ムーヴメント同士を繋ぐこと」「他者のムーヴメントと繋ぐこと ・ 「特になし」

質問 10、11「好きだった／難しかった概念」

以下、表 3 に経験者、未経験者それぞれの「好きだったもの」と「難しかったもの」を示す。

表 3「好きだった／難しかった概念」の回答結果

経験者 (22名)		未経験者 (21名)	
好きだったもの	難しかったもの	好きだったもの	難しかったもの
内臓 (7)	形・型 (6)	フレーズ (6)	内臓 (7)
空間 (6)	内臓 (4)	内臓 (4)	空間 (4)
形・型 (2)	空間 (3)	アクション (3)	フレーズ (3)
アクション (2)	アクション (3)	空間 (3)	なし (3)
フレーズ (2)	フレーズ (3)	ポジ・ネガ (2)	形・型 (1)
ポジ・ネガ (2)	ポジ・ネガ (1)	身体部位 (1)	身体部位 (1)
身体部位 (1)	なし (1)	なし (1)	ポジ・ネガ (1)
なし (0)	部位 (1)	形・型 (0)	アクション (0)
その他 (1)	その他 (0)	その他 (1)	その他 (1)

質問 12「ムーヴメント概念をもっと学びたいか」

学習継続に肯定的な回答をした経験者は 22 名のうち 20 名 (91%)、未経験者は 21 名のうち 10 名 (47%) にとどまり、回答結果に差が出た。

質問 13「これまでの授業を振り返って考えたことを自由に書いてください」

表 4 に、質問 13 の問いに対する経験者、未経験者それぞれの代表的な記述を示す。

表 4「これまでの授業を振り返って考えたこと」の回答結果

<経験者>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ムーヴメントについて全然知らなかったから、学べて良かった」 ・ 「生徒に指導をする時に、ダンス経験の有無に関わらず、みんなが楽しんで動けそうだったと思った。わたし自身、今までのやり方とは違った創作方法が新鮮で毎回ムーヴメントへの導入が違って楽しかった。興味深い!!」 ・ 「みんながたくさんアイデアを持っていて、それが活発に出るので今まで受けてきた創作ダンスとは全く違うなと感じた」 ・ 「身体に関する新しい捉え方を沢山教わることができた」 ・ 「ダンスを始めた初期に知っていればと思う、授業内容でした」
<未経験者>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「体系的な身体の動かし方があると知り、とても興味深く感じた」 ・ 「創作ダンスは難しいと思っていたが、ムーヴメントを学ぶと使えるパーツが多くあることを知り作品を創るのはとても楽しいと気づいた」 ・ 「今までの学びがあるから、動きの種類がより豊富になっていく」 ・ 「体を大きく動かせるようになった。ムーヴメントをつなげてダンスするということがわかった」 ・ 「身体表現は、学んだ知識と豊かな感性との両立があってより多様化するのだと感じた」

4. 考察

ダンス経験の有無にかかわらず創作活動に楽しく取り組めた理由の一つに、良かった点に挙げられた「枠組み、材料があったこと」が考えられる。同時に、この枠組みが「繋ぎ方」の難しさになった可能性がある。また、経験の有無によりムーヴメント概念の好みが変わったのは、未経験者は取り組みやすいものを、経験者は新規性があるものを選んだからであると示唆される。さらに、学習継続意欲の差は、ムーヴメントやダンスそのものの興味の差が現れたものだと解釈できる。今後は、異なる環境での実践を重ねながら、より良い指導法や学習内容を検討する必要がある。

5. おわりに

「ムーヴメント始まりの創作ダンス」の授業は、ダンス経験の有無にかかわらず楽しく創作活動に取り組める内容であったことがわかった。一方で、経験の有無により主観的な評価に異なる点がみられることから、表現運動・ダンス領域の授業実践において、学習者のダンス経験の有無を考慮することが重要であることがわかった。

引用・参考文献

- 橋本有子 (2017) 幼小中高ダンス教育における Creative Dance 授業の実践 : Laban Movement Analysis および Bartenieff Fundamentals を基に お茶の水女子大学人間発達研究 32 巻 Pp.39-54.
- 原田奈名子 (2019) 舞踊・ダンスにおける「からだ観」・「舞踊観」舞踊教育学研究 vol.20. p.22.
- 大橋奈希左、原田奈名子 (2017) 表現運動・ダンス領域における「からだ」を問う 体育哲学研究 第 47 号 Pp.21-25.
- 酒向治子 (2009) LOD を用いた創作ダンス指導の実践と課題—大学生を対象として— お茶の水女子大学人文科学研究第 5 巻 Pp.157-173.
- 里見まり子 (2005) 感覚の覚醒からダンスへ: ワークショップ「足うらダンス」の実践 宮城教育大学紀要 40 p.160.
- 寺山由美 (2017) 「表現運動・ダンス」領域における「身体表現」—「意図ある動き」の形成から 体育・スポーツ哲学研究 39 巻 2 号 Pp.95-108.